

2004年度事業報告

1. 事業報告全般:

景気低迷が続く国内情勢は回復の兆しが見えつつも、依然、低位停滞経済の様相となっているなかで、企業または大学図書館、情報センターにおいては、その体制、経費、機能の見直しを迫られるなど厳しい状況であった。一方、IT環境の急進展、インターネットの急速な普及をベースとして、学術情報の形態、流通、蓄積、サービスなどが変化し、出版社の提供方法、利用費用なども様変わりしている。また、学術情報の流通に係わる著作権、複写権処理の対応も検討してきた。

このような機関内外の環境変化の中で、情報部門の取り組みは従前にはない努力を迫られている。当協会として、会員相互の協力により学術情報の流通、サービスに関する調査・研究を行い、また、これらに関連する人材の育成に取り組んできた。研修事業、認定試験、シンポジウム、および研究活動としての OUG, SIG などの活動は、その目的を達成したと評価できる。

1) 研修事業が「サーチャー講座21」をはじめ盛況であった。

人材育成に向けてのセミナー、講習会については、西日本地区も含め盛況であった。特に、西日本委員会企画の「サーチャー講座21」については、はじめて東京地区でも実施し成果をあげた。また、受講を機に非会員参加者を会員に勧誘するなど会員拡大に貢献した。情報検索基礎能力試験対策セミナーも東京地区で開催し、58名の受講者となった。西日本地区での開催も検討課題となった。

2) 情報検索能力試験で受験者増となり事業拡大ができた。

2004年度は、大学への試験案内で重点配布を行った(試験会場周辺の大学に厚く配布)。また上田(長野)会場も新設するなど、受験者増に向けた案内を行った。受験申込書が受付開始と同時期になるなど、スケジュール的に課題はあるが、事業として収益増となった。実施に当たっては、認定試験実施委員会、西日本委員会、研修委員会をはじめ多くの会員の協力が得られ、協会の挙げての事業推進ができた。会場開設、スケジュールの早期化、試験案内特に大学への的確な広報などが検討課題となった。

3) 第1回情報プロフェッショナルシンポジウムを(独)科学技術振興機構と共催し盛況であった。

懸案であった(独)科学技術振興機構との共同開催が、2004年度シンポジウムとしてはじめて共催形式で開催できた。特別講演者に野依先生をお招きし講演を戴き、またラウンドミーティングを行うなど参加者に充分満足いく内容であったと評価できる。

4) 会誌の利用改善および発行経費改善を図った。

2005年1月号より、B5 から A4 にサイズ変更し、文字ポイントも1ポイント上げたなど利用の改善を図るとともに、その発行経費改善対策を開始した。併せて通信経費改善として、校正ゲラの郵送から電子メールに移行するなど、その費用、工期短縮も図った。

5) 複写権問題対策委員会は、検討会、説明会を開催し、活発な活動を展開した。

6) OUG, SIG の活動も活発に展開し、SIG は期中に1部会が発足した。

「ターミノロジー部会」が5月に発足した。

7) 会員拡大に向けて継続的な努力を行ってきた。

ここ数年会員が減少傾向であるが、あらゆる機会を通じて勧誘活動を行っている。

サーチャージ講座21をはじめとしたセミナー参加者、情報検索能力試験合格者、シンポジウム参加者などへ継続的な勧誘努力を行っている。

2004年度3/四期には、会員特典の案内および入会キャンペーンを行い、退会の歯止め、入会増に向けて努力した。その成果は2005年度の評価となる。

会員数は対昨年度比で、9増の微増となった。昨年度は、対前年比で108減であった。

継続的な努力を協会挙げて行うことが大きな課題である。

2. 2004年度役員および担当（○は2004年度選出）

理事(東日本地区)

- 岩崎 泰人 出版委(副)
- 大塩 稔 研修委(副)
- 小河 邦雄 OUG(正)
- 梶 正憲 広報委、運営委
- 木内 良一 副会長、運営委、事業推進委、表彰委
- 木本 幸子 出版委(正)、運営委
- 高山 正也 会誌編集委(正)
- 立花 肇 会長、運営委
- 田村 紀光 事務局長、運営委、事業推進委
- 土谷 久 運営委、研修委(正)
- 時実 象一 OUG(副)、著作権委
- 西垣 幸雄 運営委、事業推進委(副)
- 平井 邦造 副会長、事業推進委(正)、複写権委
- 松谷 貴己 試験実施委(正)
- 三浦 敬子 試験実施委(副)
- 山口 哲雄 SIG(正)、会誌委(副)

理事(西日本地区)

- 岡 紀子 西日本委
- 河塚 幸子 西日本委、試験実施委(大阪:正)
- 羽田 幸代 西日本委員会委員長、事業推進委、研修委
- 村山 博一 西日本委

監事

小山内 正明
○真銅 解子

評議員(東日本地区)

浅井 京子	安藤 敏夫	石井 浩
石黒 秀美	○大田原 章雄	○岡谷 大
○岡安 渉子	○小野寺 夏生	川崎 理恵
川村 剛	北島 由紀子	○相良 久次郎
鈴木 慶二	鈴木 博道	棚橋 佳子
丹 一信	○東郷 功	○殿崎 正明
○豊田 恭子	○長縄 友子	野坂 幾子
長谷川 正好	○原田 智子	○深津 義子
○藤田 節子	松浦 勝彦	○松下 茂
○三浦 勲	○門條 司	山崎 久道
○山地 康志	吉井 隆明	

評議員(西日本地区)

酒井 進	○高橋 和子	田窪 直規
田中 邦英	○馬場 健次	○浜田 行弘
○原 茂樹	三村 智子	

3. 会員異動

種別	2003 年度末	入会	脱会	増減	2004 年度末
維持会員	81	0	7	-7	74
特別会員	125	5	4	1	126
普通会員	1,459	155	136	19	1,478
学生会員	69	16	20	-4	65
合計	1,734	176	167	9	1,743

*講習会、セミナー参加時に、約50名が入会した。

4. 会議

- 1) 通常総会 ----- 1回
第47回通常総会および協会賞表彰式 2004年5月21日(金)
- 2) 理事会 ----- 6回
- 3) 評議員会 ----- 1回

4) 委員会

運営委員会 -----	10回	シンポジウム実行委員会 ---	9回
表彰者選考委員会 -----	1回	認定試験実施委員会 ---	10回
事業推進委員会 -----	7回	著作権問題委員会 -----	3回
会誌編集委員会 -----	12回	複写権問題対策委員会 ----	6回
出版委員会 -----	3回	西日本委員会 -----	6回
研修委員会 -----	5回	OUG、SIG 各報告ページに記載	

5 刊行事業

5.1 会誌刊行事業

会誌刊行事業における2004年度の目標の一つは、前年度に引き続いて安定した発刊(当月 1 日)及び配送であった。ほぼ全号達成された。

会誌の内容については、もう一つの目標である、特集を中心とした編集方針を推進し、適宜投稿論文を加え、情報担当者の世界で話題になっているトピックをかなり深く掘り下げることができた。情報担当者にとって、必要な知識を得るための最新の情報源として、あるいは必要なときに直ちに参照できるように組織化された編集を遂行することができた。また、情報プロフェッショナルシンポジウムで好評であった、ラウンドミーティングのパネリストの発言趣旨を掲載した。

連載としては、2005年3月号まで「INFOPRO の BOOKMARK」と題して、調査や検索担当のINFOPRO を目指す人向けに、ビジネス・ライフサイエンス・特許・工学の各分野の有償・無償のサービスを、Webpage の BOOKMARK を通して紹介、比較する記事を掲載した。

会誌発行サイズを2005年1月号より、B5 から A4 にサイズ変更し、文字ポイントも1ポイント上げたなど利用の改善を図るとともに、その発行経費改善対策を開始した。

【特集】

- 2004年 4月号 図書館サービス評価と E-metrics
- 5月号 特許検索に必要なスキルと知識
- 6月号 科学技術情報流通を俯瞰する
- 7月号 主題情報
- 8月号 ユーザビリティ
- 9月号 デジタル情報資源のアーカイビング
- 10月号 ナレッジ・イノベーション：持続的な知識創造を支える組織と情報
- 11月号 情報の視覚化
- 12月号 最新情報検索技術
- 2005年 1月号 中国のいま
- 2月号 情報ポータル
- 3月号 図書館コンソーシアムの動向,pt.2

【連載】 INFOPRO の BOOKMARK

【コラム】 INFOSTA Forum

5.2 一般刊行事業

一般刊行事業における2004年度の目標は、前年より刊行を開始したINFOSTAブックレットシリーズの継続的な刊行による定着化であった。

2004年度に刊行された書籍のうち1点は、医学分野に関する書籍であり、一般刊行事業としては新たな分野に着手できた。また前年に引き続き需要の多い特許に関する書籍を刊行した。

2004年度刊行書籍

刊行物名	判/頁数	定価	発行日	発行部数
実践的特許公報の読み方	B5/64p	1,000 円	2004.07	1,000 部
			2005.03	1,000 部 増刷
情報検索の基礎知識	B5/150p	2,000 円	2005.03	1,000 部 増刷
若葉マークの PubMed	B5/76p	1,200 円	2005.03	1,000 部

6. 普及研修事業

6.1 研修会・セミナー

今年度は、初の取り組みとして 情報検索応用能力試験2級 受験対策セミナーを大阪、東京 両者で開催した。両会場併せて100名の参加者があり、また 参加者の中で40名の新規入会者があった。一方 情報検索基礎能力試験対策セミナーも、昨年度同様 50名以上の参加となり、これらのセミナーが受験者増にも寄与している。

研修委員会の企画だけでなく、西日本委員会、複写権問題対策委員会企画のセミナーも増え、参加費収入はこの数年にわたり増加しておる。

研修一覧

名称	期日	会場	参加者数
組織内の情報共有化	2004年4月27日	化学会館	26名
見学会 MDB 閲覧室見学会 - 株式会社 日本能率協会総合研究所 -	2004年5月28日		14名
PubMed活用術	2004年6月12日	大阪産業創造館	38名
検索データ加工のための Perl 入門	2004年7月9日	化学会館	53名
見学会 独立行政法人理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター図書室	2004年7月30日		12名
サーチャー講座21 情報検索応用能力試験2級受験対策(大阪開催)	2004年9月11日、 12日	大阪産業創造館	39名
情報部門におけるナレッジマネジメントへの取り組み	2004年9月17日	化学会館	23名
情報検索基礎能力試験対策セミナー	2004年9月18日	機械振興会館	58名

サーチャージ講座21 情報検索応用能力試験 2級受験対策(東京開催)	2004年10月2日、3日	機械振興会館	61名
プレゼンテーションの技術を磨こう	2004年11月19日	化学会館	23名
著作権セミナー -著作権法改正で利用はど う変化するのにか-	2004年11月26日	大阪府中央公開 堂	33名
見学会 国際基督教大学図書館 -自動化 書庫を先駆的に導入-	2005年1月14日		15名
情報担当者のための個人情報保護セミナー	2005年3月3日	化学会館	38名
検索データ加工のためのPerl入門(1日じっく りコース)	2005年3月5日	オムロン研修セン ター	24名

6.2 シンポジウム

予ねてより懸案であった、(独)科学技術振興機構との共催が実現し、2004年度に「第1回情報プロフェッショナルシンポジウム」を開催し、400名を超える参加を仰ぎ盛況のうちに実施できた。

特別講演はノーベル賞受賞者の野依良治氏による「わが国の科学研究が正当に評価されるために」の演題で講演を頂き、会場が満席になる盛況であった。合わせて 特別講演と関連したテーマで、ラウンドミーティング「これからの日本の学術雑誌」を開催し多くの関心を集めた。

会 期 : 2004年10月21日(木)～22日(金)

会 場 : 日本科学未来館(お台場)

一般発表 : 12セッション 34件

6.3 認定試験(情報検索能力試験)

新方式の認定試験の実施2年目となり、2003年度の実施状況を踏まえ、運用上の改善、広報の改善を行い、その結果2004年度は受験者数が848名、前年比113名増となり事業拡大が達成できた。

- ・運営改善としては、活発なる委員会活動、委員会メーリングリストの有効活用およびマニュアルの改善を行った。
- ・広報(受験案内)の改善としては、ポスター、チラシを試験会場近辺の大学に重点的に送付した。
- ・会場設定の改善としては、2004年度は筑波会場が中止となったが、上田女子短期大学(長野)が新設され、受験会場は全国6会場を維持した。
- ・試験後は、予定通り早期に合格発表を行い、「合格を祝う会」を東京地区(3月7日:34名参加)と大阪地区(3月12日:14名参加)で開催した。新規会員および OUG 入会への橋渡しとした。継続的課題として、試験問題の作成、採点の労力を踏まえ、より円滑な試験運営の検討を行った。

1) 2004年度「情報検索応用能力試験」実施結果

- 1 級および 2 級の受験者数と合格者数、合格率を表に示す。
 1 級受験者数は 2003 年度より増加し、2 級受験者数は減少した。

2004 年度「情報検索応用能力試験」実施結果（カッコ内は 2003 年度実績）

	受験者数	合格者数	合格率	実施日	試験地
2 級	200 名 (221 名)	88 名 (102 名)	44.0% (46.2%)	2004-11-28	東京(1) 東京(2) 名古屋
1 級	37 名 (25 名)	10 名 (6 名)	27.0% (24.0%)	2004-11-28(一次)	大阪 福岡 上田
				2005-02-20(二次)	東京

2) 2004 年度「情報検索基礎能力試験」実施結果（カッコ内は 2003 年度実績）

ポスター、チラシを試験会場近辺の大学に重点的に送付した結果、受験者が大幅増となった。

	受験者数	合格者数	合格率	実施日	試験地
基礎	611 名 (489 名)	489 名 (401 名)	80.0% (82.0%)	2004-11-28	東京(1)、東京(2)、名古屋、大阪、福岡、上田

7. 調査研究事業

7.1 受託調査、分類付与

- 1) 受託調査はなかった。
- 2) 分類付与：「日立インターメディック」への UDC 分類付与

7.2 標準化活動

- 1) 国内外の標準化の動向に対処するため国内外の動向調査に努めた。
- 2) 日本工業標準調査会情報部会 ISO/TC46 情報とドキュメンテーション専門委員会に委員を派遣して協力した。
- 3) SIST 委員会に委員を派遣した。

7.3 著作権活動

- 1) 著作権問題委員会
 - (1) 最近の著作権をめぐる環境変化や新たな問題について討議した。
 - (2) 複写権問題対策委員会との職掌分担につき、担当理事を中心に調整を行った。

2) 複写権問題対策委員会

2004年7月26日の委員会を筆頭に、都合8回の委員会を開催し、3月16日には第6回複写権問題検討会を開催した。第6回の検討会では、文化庁著作権課の吉川晃課長を招き、「著作権行政の今——法改正の課題と展望」の講演と意見交換などを行った。

2004年6月には、「知的財産推進計画の見直しに関する意見募集」に対して会長名で意見書を提出した。2004年8月には、文化庁著作権課からの「著作権法改正要望について(照会)」に対して、また、2004年9月には同じく著作権課の「著作権等管理事業法の施行状況等に関する意見募集」に対して、それぞれ意見表明・要望の提出を行った。この中で要望した権利制限に係わる一部内容は、著作権法改正の検討課題として正式に採り上げられることとなった。また、文化庁著作権課吉川晃課長に「文化審議会著作権分科会委員への学術情報利用者任命の要望書」も提出した。

この間、新たに設立された有限責任中間法人日本出版著作権協会(JPCA)の事業説明会に参加し、「文化通信」の取材を受け、会員・非会員からの複写権問題に関する質問に応じたりしてきた。

下記検討会を実施した。

2005年3月16日 アルカディア市ヶ谷 42名

テーマ：第6回複写権問題検討会 著作権行政の今—法改正の課題と展望—

8. その他の委員会、事業活動

8.1 事業推進委員会

事業推進委員会には、会誌編集委員会、出版委員会、研修委員会、試験実施委員会の4つの委員会より構成され、この数年事業化に向けての取り組みを行なってきた。2003年度の1月から西日本委員会もこの委員会に加わってもらい、特に研修委員会及び試験実施委員会の活動を黒字化・事業化に向け動き始め、東西の連携も深まってきた。この活動連携が強化されたことは、出版委員会、会誌編集委員会にも少なからず影響を及ぼしており、会誌での案内掲載の時期、研修会の時期に合わせた出版計画などの調整が、まだ不十分な面があるもののできるようになった。これらの結果が、認定試験の“基礎”および“1級”の受験者が増え、個人会員が増加している傾向に現れている。

しかし、これらのことは2004年度の活動としては成果と見ているが、次のステップに向けての活動として、幾つかの事を検討するべき要素を見っておかなければならない。それは、事業化という、個別の委員会の採算ベース展開に向けた活動の結果、担当してくれている各委員会委員に過大な負担を要求することになってきている面が見受けられる事である。それが次期の各委員会委員長及びその委員の選出に困難をきたしているように見られることである。即ち、事業推進委員会に所属する各委員会は、本来的に“企画力”を問われる委員会であるが、そこに単純な収益性を問うと、企画力の増強策よりも、経費の支出を押さえる事でそれを成し遂げようとする動きになりがちで、各委員会の委員長及び各委員に過大な負担となってしまうことである。

これは何に問題が有るかと言えば、これらの各委員会活動の本来的目的、“会員のためになる。”、“会員の増加・増強につながる。”という視点が弱くなると、現有勢力での採算の話になってしまいがちになるのだが、だからと言って、これらの委員会が協会の宣伝活動としての採算度外視でできるわけではない。2005年度からは、“企画力”に重点を置いた採算の問題として取り上げ、作業の一部を専門の業者

に委託することも含め検討する。検討の対象となる業者は、既に維持会員であるか、或いは維持会員になってもらうことで、この業務の一部を担ってもらうことの検討を開始する。

8.2 広報委員会

協会活動の普及、拡大に向けて取り組んでおり、協会パンフレットの改訂版作成、会誌での研究部会の紹介(OUG,SIG)、メールマガジンの紹介を行った。

さらには、ホームページ改善に向けて、改定作業を開始した。都度少しずつの改定作業であり、次年度への継続作業となる。

検討の場は、事業推進委員会、試験実施委員会、西日本委員会、研修委員会などよりの要望および運営委員会、事務局での起案により、事務局にて実行してきた。

8.3 西日本委員会

西日本委員会は理事評議員の12名から構成され、西日本地区のセミナー、講習会、見学会、および情報検索能力試験の会場支援を行っている。

特にここ2年間は「情報検索能力試験」対策セミナーとしての「サーチャー講座21」を企画・実行し、2004年度は東京地区でも開催し、研修事業、「情報検索能力試験」受験者増、および普通会员増に大きく寄与してきた。

以下 活動詳細を記す。

1) 普及研修事業

【講習会】4件

- (1) PubMed 活用術:2004年6月12日(土)実習付きで実施。
- (2) 検索データ加工のための Perl 入門
 - ・2004/03 に京都にて半日で行ったものを終日版にして2004年7月19日(金)東京で実施。
 - ・東京で実施したスケジュールで再度2005年3月5日(土)京都で実施。
- (3) サーチャー講座 21:情報検索応用能力試験2級受験対策セミナー(土日曜日 2回セミナー)
 - ・大阪:2004年9月11-12日
 - ・東京:2004年10月3-4日
- (4) 著作権セミナー:2004年11月6日(金)

【見学会】

2004年7月30日(金)

独立行政法人理化学研究所発生・再生科学総合研究センター (CDB)図書室

2) 西日本地区会員増強活動

当地域在住会員の交流と新規会員の勧誘、さらにデータベース検索技術者認定試験合格者有志の会「インフォ・スペシャリスト交流会」の会員との交流を目的として、「情報と人をつなぐ『じょいんと懇話会』」を開催した。

日時 :2004年12月3日(金)

場所 :大阪第一ビル 11F 凌霜クラブ

話題提供: 三菱ウエルファーマ株式会社製品情報部情報開発グループ 吉野敬子氏

「環境の変化を乗り切る! 自分の売りモノとは!」

3) データベース検索技術者認定試験および情報検索基礎能力試験の実施支援

- ・2004年度 大阪開催支援 (2004年11月24日(日)、関西大学)
- ・2004年度「合格を祝う会」開催 (2005年3月12日(土)JST)
祝賀講演:情報科学技術協会会長 立花肇氏 「情報専門家にとって大切なこと」

4) 委員会(6回)の開催

- ・委員会開催日程:4月23日、7月2日、8月20日、10月29日、12月18日、2005年2月9日
 - ・委員会において、多くの課題を議論したが、特筆すべき主要案件を以下に記す。
- (1)「サーチャー講座 21」:受験対策講座として開催して4回目を経過した。講座は各講師による出題傾向ポイント指導が毎年非常に好評なため、2004年度は研修委員会の協力のもと、大阪だけでなく東京でも実施した。東京・大阪あわせて受講者100名のうち、基礎受験者14名、2級受験者62名で、合格者は基礎13名、2級33名であった。サーチャー講座21受講者の2級合格率では53%で、受験者全体の41%に比し大きく上回った。
 - (2)「検索データ加工のための Perl 入門」:「検索データ加工」シリーズは、毎年受講者ニーズを調査把握し、2003年にテキスト処理の王道ともいえる Perl を題材に取り上げた。受講者には好評であったが、半日コースでは十分に紹介しきれない内容であったので、本年度は1日コースに改訂し、2004年7月に東京、2005年3月に京都で実施した。毎年好評な企画なので、これからも継続させていく。
 - (3)西日本委員会主催講習会としては初めての試みである実習付きの講習会を「PubMed 活用術」として実施した。必ず自身で使えるようになって帰れると受講者には好評であった。
 - (4)各種セミナーのPR策:協会Webサイトへの早期の掲載、各種関係協会・学会の会誌への掲載を積極的に実施した。
 - (5)会員増強支援策検討:じょいんと懇話会および「合格を祝う会」における人材交流の活性化を進めた。
 - (6)会員増強策として、セミナーの価格設定などについて、さまざまなアイデアを出し、2005年度開催のセミナーに反映する予定。

8.4 表彰者選考委員会

第29回「情報科学技術協会賞」各賞の受賞候補選考を行い、次のように推薦した。

- ・情報業務功労賞 :神尾 達夫氏 (平成16年7月24日ご逝去。ご冥福をお祈りいたします)
- ・教育・訓練功労賞 :小野寺夏生氏
- ・教育・訓練功労賞 :木本 幸子氏
- ・協会事業功労賞 :戸塚 隆哉氏

9 部会関連事業

9.1 日本オンライン情報検索ユーザー会(OUG)

OUG各主査を中心として活動が企画立案され実行された。各分科会とも月に1回程度の開催で、午後の半日程度を使って、検索演習やテーマを決めた研究と報告、さらにベンダーの訪問、講演会の開催等を行った。特に、最新の情報調査環境に対応するためにインターネット関連の技術やサイトの研究

にも力が入られた。そして、それらの結果については、それぞれの分科会のホームページで結果や議事録等を公開し、遠距離で実際に参加できない会員への情報提供として有用であったと思われる。その内容についても、研究結果を盛り込んだそれぞれの分野のポータルサイトのレベルの高いものが作成されている。これらは、記録を作成する担当者やサイトの運営者の負担は大きいと想像されるが、INFOSTAの会員のみならず、一般に公開されたホームページであることを考えると、新たな会員獲得の為にも有用で価値ある活動であると考ええる。

1) 化学分科会 (主査:日暮 理加氏) 開催11回(8月休会)

- (1) 講演会開催 「化学物質のリスクアセスメント」(2004. 7)
- (2) ベンダー訪問 エルゼビア・ジャパン(2004. 2)、化学情報協会(2004. 3)
日本MDLインフォメーションシステムズ(2004. 6)、トムソン・サイエンティフィック(2004. 10)
- (3) 勉強会開催 テーマを決め、各自検索例を持ち寄った。また、各自疑問点を持ち寄って検討した。

2) ライフサイエンス分科会(主査:佐藤 京子氏) 11回の開催(8月休み、7月は臨時開催)。

内容は部会員の希望のもとに、ライフサイエンス関係のデータベースに関する最新情報のベンダー発表、情報部門訪問、部会員全員参加による検索演習(6月、10月)であった。

データベースの最新情報紹介としては、「Dialogサービスの最近のニュース」、「ユサコ(株)のEBM関連DBの紹介」、「Thomson Pharmaの紹介」、「医中誌における研究デザイン用語付与の実際、医学用語ソーラスとUMLSについて」をベンダーさんから直接発表頂いた。

情報部門訪問は JAPIC を訪問した。

また、ベンダー発表ではないが最近の情報についての研究紹介として、麻布大学 小田切氏から「電子ジャーナルの現状」、IMIC 竹内氏から「雑誌論文における主題検索 - 特に日本語データベースにおける問題点について」を行って頂いた。さらに、参加者全員によるリンク集の紹介として「調査に役立つウェブサイト紹介」も行った。7月の臨時開催は部会員の固武氏より「インパクト・ファクターに関する考察」などを行った。

最近、ライフサイエンス関係のデータベース研修が減少した事もあり、本部会の最新情報収集の役割は大きくなってきていると感じている。特に、開催テーマにより2004年度は臨時参加が希望が多く寄せられた。

3) インターネット/ビジネス分科会(主査:渡邊 晃氏) 11回開催(8月を除く毎月1回)

参加者:延べ66名、1回平均6名(5~10名)

(1) 研究テーマ:

ビジネス情報に関する研究	A. 特定産業・技術分野の代表的企業の調べ方(4, 5月) B. 食品「ヨーグルト」の各種情報源(6月) C. 飲物「ビール」に関する各種情報源(7月) D. 関連会社に関する各種情報源(3月)
その他の情報源の研究	E. 日本人の生活に適した外国に関する情報源(9月)

	F. 化学関連の情報源(11月) G. 図書の目次情報がわかるサイト(12月) H. 学術情報サービス(エルゼビア社 Scopus)(1月)
検索エンジンの利用法の研究	I. エクセル・データの検索比較(10月) J. ウェブ・ディレクトリの比較及び活用法(2月)

(2) 交換したその他の有用情報:

● 新情報源(提供サイト、データベースなど)	:56件
● エンジン情報(機能、新エンジン、利用方法など)	:35件
● 役立ち情報等(IT技術動向、ソフト活用法、他)	:35件

(3) その他:

● 2004年度には、機関訪問の機会はなかった。
● 年度最後の会では活動テーマに対する要望について意見を交換した。参加者から挙げられた専門的なビジネス関連情報の習得の要望に配慮し、情報探索にインターネット情報を活用するためのウェブブラウザ(頁閲覧ソフト)や検索エンジンの機能にも注目できるテーマを取り上げるようにしたい。
● この3月に2001年開設分科会ホームページへのアクセス数が漸く5桁に入った。

4) 特許分科会(主査:鈴木 利之氏)例会を原則として毎月第2金曜日に開催した。

(1) 例会開催内容

- 4月 9日 今後1年間のテーマの検討
- 5月14日 特許公報の読み方・明細書を書いてみる
- 7月23日 日立の概念検索システムのお試し利用について・合宿で実施した概念検索の勉強結果のその後の報告
- 8月20日 ATMSの概念検索
- 9月10日 医薬特許登録期間延長制度と延長期間の調査方法
- 10月8日 新規性調査における検索式の作り方
- 11月12日 公共(各国特許庁)の特許情報サービスを考える
- 12月10日 「Fターム解析マップ」の紹介とその評価
- 1月14日 数千件の特許文献を効率よく分類し技術開発に役立てる手法
- 2月18日 調査についてのQ&A
- 3月11日 調査についてのQ&Aのつづき

(2) 長野県茅野市で合宿研修を実施した。開催日:6月25～26日

テーマ:「概念検索システム」を特許性調査に利用するには

9.2 SIG

ここ長い間SIGは4部会体制でしたが、2004年度5つ目の専門部会として、「ターミロジー部会」が発足した。一方、専門部会の内規も新時代に合わせて見直しをする時期に来ていると思うが、今年度は結局手が着かないままに終わってしまった。とはいえ、各部会の活動はコアパーソンを中心として活発に行われた。また、パテントドクメンテーション部会が、2004年10月の「第1回情報プロフェッショナルシンポジウム」にて、その活動成果を発表した。

1) 技術ジャーナル部会 [会員:17人(コアパーソン:輪番制)] (隔月開催)

奇数月の最終金曜日に、合計6回の会議を開催した。

会議は、担当幹事が用意した設問に沿って各社がそれぞれの現状を発表し、それに対して質疑応答を行うという形で進めた。毎回、活気に満ちた雰囲気の中かで進行した。2004年度の主な議題は次のとおりである。

- (1) 技報の役割・あり方
- (2) 技報の役割・あり方・評価
- (3) 編集業務の現状と改善
- (4) 印刷業界での色彩について(講演)
- (5) 技報編集作業の実例紹介と改善策
- (6) 読みやすく技術レベルが高くわかりやすい技報の発行
- (7) 英文版技術ジャーナルの発行

2) パテントドクメンテーション部会/会員:8名(コアパーソン:桐山 勉氏) (毎月開催)

臨時部会(9月に1回開催)

- (1) 6つのテーマで3種類のプロバイダー利用によるスピーディー検索比較テストを行い、その成果をINFOPRO2004シンポジウムにて発表した。
- (2) 協会発行専門誌5月特集号に、「データの加工と解析」を投稿した。
- (3) 協会のホームページに組み込まれたパテントドクメンテーション部会のホームページで、活動状況を継続公開した。
- (4) Yahooのe-Groupにパテントドクメンテーション部会だけの非公開電子部会を継続開催し、毎月の部会活動に対する活性化補完の手段とした。
- (5) World Patent Information 専門誌のトピックス記事7件を使い、記事紹介輪講会を行った。
- (6) 特別研修会を新潟県高柳町(かやぶきの里)にて6月に開催した。
- (7) Fugmann 理論の解説(3回シリーズ)の投稿準備検討をした。
- (8) 知財関連月間新聞の配本(特別無料サービス)

3) 分類/シソーラス/Indexing 部会 会員:17名 (コアパーソン:山崎 久道氏) (毎月開催)

当部会は、インデクシング、分類、シソーラス、情報検索の諸問題について、理論および実務の側面から研究している。部会員は、研究者、情報検索実務家、図書館員、データベース製作者、検索等のシステム関係者、などからなり、毎月1度の割で会合を開いて討論を通じて研究を深めている。研究者も、そのほとんどが、かつて、何らかの情報実務に従事した経験を有している。2004年度は、以下

の事業を行った。

(1) F. W. Lancaster (著)“Indexing & Abstracting in Theory & Practice 第3版”(University of Illinois, Graduate School of Library and Information Science)の会員による輪読をおこなった。

(2) 2004年12月4日～5日、「ラフォーレ伊東」において、分類に関する諸問題を広く討議する合宿を行った。当部会以外からも、同種の研究を行っている Terminology 部会、旧中村塾からも、参加者を募った。この合宿における討議の記録は、会誌の2005年3月号に発表の予定である。

4) Web サイト研究部会 会員: 10名(コアパーソン 橋田昌明氏) (毎月開催)

(1) 図書検索システム関係

・図書検索システムは、開発後、該当企業内で順調に稼働を続け実質的には当研究会の手を離れているが、バグフィックスを中心としたメンテナンスをサポートしている。

具体的には、データベースとWebサーバ間の文字コードの違いによる文字化けの問題を解消するためのスクリプトの修正などを行った。

なお、実機の利用状況を把握するためのアクセスログ解析の必要性が出ており、これに関連して、現在アクセスログ解析ツールの調査・利用方法の研究などを行っている。

(2) テキスト処理関係

・会員の実務に関して「ホスト系データベースから取り出した新刊図書データを見やすく整形する」というテーマが提示された。

従来は、Excel、FileMaker などのソフトを使ってマニュアルで整形していた処理を、会員の相互協力の下、perl のスクリプトによって、原データを直接 HTML 型式データに変換する方式に変更することが可能になり、大幅な処理の効率化を行うことが出来た。

(3) Linux 関係

・Linux に関しては、既に各人がノートPC での Windows と Linux のデュアルブートを可能にしており、各人個別の取り組みは行われているが、研究会自体では直接 Linux を利用する機会が少ないこともあり、全体として特に目立った動きはなかった。

しかし、Windows サーバしか利用していなかった自企業内で、会員が働きかけて新たに Linux サーバを導入した、自社内で大規模に Linux を展開している別の会員が、その経験を元に「情報管理」誌に論文を発表(注*)するなど、間接的にはそれなりの成果を上げることが出来た。

来年度は、Linux についてより積極的に取り組んで行きたい。

(注*) オープンソースへの取り組みと展開(前編)、(後編) 段木亮一 著
情報管理 Vol.46 No.12(2004/3)、Vol.47 No.5(2004/8)

5) ターミノロジー部会 会員: 14名(コアパーソン: 太田泰弘氏) (隔月開催)

情報科学技術の基礎領域に位置づけられるターミノロジーについて、その理論および実際に関する学習および研究をおこなうことを目的として、2004年5月に設立。原則として隔月開催とし、当面は専門家を招いての学習にあて、3月までに5回実施した。

第1回(2004-06-09): 韓国の学術用語と漢字表記(講師: 塩田雄大氏)

第2回(2004-07-09): 国立国語研究所が主催した外来語に関する国際シンポジウム/経過 と感想
(講師: 田中牧郎氏)

第3回(2004-09-21):コーパス言語学/検索エンジンを通しての言語研究(講師:萩野綱男氏)

第4回(2004-11-26):セマンティック Web とオントロジー/その活用(講師:松井くにお氏)

第5回(2005-02-04):計算機による常識の獲得とことばの理解(講師:黒橋禎夫氏)

10. 関連団体との交流

1) 会員として加入

- ・機械振興協会 賛助会員(継続)
- ・科学技術振興機構 賛助会員(継続)

2) 他団体より後援を受けたもの

専門図書館協議会、日本医学図書館協会、日本データベース協会、日本図書館協会

3) 他団体に共催、後援、協賛したもの

- ・情報学シンポジウム「日本学術会議」
- ・データベース TOKYO2004 「データベース振興センター」
- ・第14回整理技術・情報管理研究集会「TP&D フォーラム2004」
- ・第17回専門用語シンポジウム「情報知識学会」 など